



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 東北大学大学院歯学研究科

## 歯学部

## 東北大学病院歯科部門

# NEWS LETTER

第5号 2010.4



## 平成22・23年度の歯学研究科・歯学部執行体制の発足に当たって

歯学研究科長・歯学部長 佐々木 啓一



この4月から歯学研究科長・歯学部長を拝命しました口腔システム補綴学分野の佐々木啓一です。昭和40年（1965年）4月に開設された東北大学歯学部におきましては、初代本川弘一先生から数えて第25代の学部長となります。私は昭和31年（1956年）に東北大学病院で生まれた生粋の仙台人で、昭和56年（1981年）3月卒業の本学部11回生です。既に45年の歴史を刻む本学部では、同窓生の中でもだいぶ上の年代になりました。また東北大学における他の部局長も同年代の方が多くなっ

ています。まだまだ浅学で、諸先輩方から見れば頼りないところ、考えの浅いところも多々あるものと存じますが、大学での生活も終わりに近い年代となった今、精一杯、職責を果たすべく精進したいと思っています。東北大学ならびに本歯学研究科・歯学部、また歯学、歯科医療を思う気持ちは相応に持ち合わせているつもりですので、よろしくご支援、ご鞭撻のほど、お願いいたします。

さて今日、歯科医師の供給過剰、ワーキングプアや、歯科インプラントの使いまわしなどのインプラント治療における問題点が広く報道され、歯科医療そのものへの社会的な信用が大きく揺らいでいます。これらの社会状況を反映し、志願者、入学者の減少、国家試験合格率の急落等、歯学部・歯科大学を取り巻く環境は厳しくなっております。これは国立大学歯学部も同様であり、本学部も例外ではありません。本研究科・学部は、これらの社会環境に加えて研究不正問題により、この2年間、有形無形のさらなる打撃を被ったものと感じております。もちろんこの問題につきましては、私どもは社会、東北大学、歯学関係に与えた影響の大きさをしっかりと認識し、二度とこのような事態を起こすことが無いように努めなければなりません。その研究倫理の涵養等に係る体制整備は、既に笹野前研究科長、小坂前研究科長事務取扱のご尽力により、着々と進んできております。これらの整備を含め、東北大学における調査が結論を見、一連の処分、不正論文の取り下げ等の対応が進んでいる現在、本研究科・学部は現状を真摯に受け止めながら、研究科・学部ならびに本邦の歯学、歯科医療の将来を考えた新たな展開を図ることが求められております。歯学教育研究の真のリーダーとなるためのリスタートです。これは我が国有数の総合大学である東北大学に存在する歯学研究科・歯学部としての責務でもあります。

しかし、その道は決して容易ではありません。私どもはまず東北大学のなかで認知される研究科・学部としてのアイデンティティをしっかりと確立しなければなりません。工学研究科、医学系研究科、金属材料研究所をはじめとする東北大学の各部局、そしてその教員は、我が国はもちろんのこと世界での有数の実績を有します。我々の研究科・歯学部は常にこれら部局と比較、評価に曝されています。その評価にはワールド・リーディング・ユニバーシティとしての我が国、世界における位置づけ、世界への発信という視点が大きな割合を占めます。これは歯学領域における他大学との競争とは異質であり、比較にならないほど厳しいものです。しかし、これを乗り越えることが自ずと私どもを歯学のリーダーたるべく育てることになります。

その要点は「研究活性ならびに質の向上」と「学部教育・大学院教育の充実」に集約されます。具体的には教員の研究活性、業績の向上、若手研究者にキャリアパスを明示するための教員の流動化、教員個々の業績を適切に評価する評価システムの運用、研究心を涵養する学部教育カリキュラムの構築、国際力・世界に通じる研究力を涵養する国際連携に基づく大学院教育などが挙げられます。これらをサポートするための体制整備として研究科分野の再編成、教員再配置を行う必要があります。この研究科の再編は、移転が完了した病院診療科・治療部の在り方、その再編と連動するものです。さらに建物の改修、大型研究経費の獲得など、喫緊の課題を大学本部の協力を得ながら実現しなければなりません。歯学研究、歯科医療の将来像を見据えて、病院部門を含めた研究科の構成員全員が個々の役割を認識し、その役割を果たすことにより、以上のことが具現化できるものと考えております。教職員の皆様、関係者の皆様、是非、ご協力のほどお願いいたします。

## 総括副院長就任のご挨拶

東北大学病院総括副院長 島内 英俊



このたび平成22年4月1日付を以て、東北大学病院総括副院長を拝命し、歯科部門を預かることになりました。皆様ご存知のように、歯科医療センター（旧歯学部附属病院）は昨年12月末を以て閉院、本年1月から新外来診療棟で歯科部門として開院しました。東北大学病院という日本でも最大級の特定機能病院における歯科医療の場となることによって、新生歯科部門に求められる課題は従前より高度なものとなっております。



まずは特定機能病院としてふさわしい高次歯科医療・先進医療の提供です。各科等には、常にどのような高次医療を提供できるのかを問いかけたいと思っております。また第2項先進医療（既存技術で薬事法承認・適用を受けているもの）の実施承認を推進する必要があります（歯科部門ではインプラント義歯のみが実施承認済）。また未来医工学治療開発センター（TRセンター）を活用した歯科独自のトランスレーショナルリサーチ、さらにはその成果を応用した第3項先進医療（高度医療で、薬事法の承認・認証・適用のないもの）としての実施を歯学研究科とともに進めていかねばなりません。加えて、大学病院の最大の特徴は、多くの領域の専門家（専門医等）がひとつの場所にいることです。このメリットを活かせるのが、診療科の連携による専門外来です。すでにこのタイプの外来としては、すでにインプラント外来がありますが、今後もニーズを把握した上で疾患毎に専門家が結集して治療できる外来の設立を推進していきたいと考えています。



次に、地域歯科医療との連携をより密接にする必要があります。そのためには、大学病院でなければできない診療の提供を行うばかりでなく、それを宮城県、広くは東北地方全体の地域歯科医療を担っておられる歯科医師の先生に理解して頂いた上で、紹介をして頂きやすい連携体制を構築する必要があります。すでに宮城県歯科医師会等に働きかけるとともに、院内に地域医療連携センター（With）を利用した紹介システムが確立されております。今後も地域の先生にとって“ユーザビリティ”の高い高次医療機関を目指して、広報やシステムの整備を積極的に

行っていきたいと考えております。“ユーザビリティ”とはIT用語で、ソフトウェアやWebサイトのアクセスのしやすさ、ユーザーがストレスなく使用できるかを表す言葉です。同じように来院される患者様が私たちの病院を訪れて快適に歯科医療を受けられる、すなわち一人一人の患者様にご満足頂ける“ユーザビリティ”の高い病院であることを目指していきたいと思っております。



歯科が新外来診療棟に移転することによって得たもう一つの大きなメリットが、歯科と医科の連携診療がスムーズに行える環境です。今回の移転によって医科部門からは歯科治療の必要な患者様を速やかに紹介できるばかりでなく、歯科からも対診を求めることが容易になりました。また医科部門のPETやMRIなどを用いた検査も院内紹介システムを介して簡単にできます。歯科と医科が連携すれば、お互いに患者様の安全・安心に配慮したより高いレベルでの医療を提供できることは言うまでもありません。

一方、臨床歯科医学教育の場としての役割は新外来診療棟においても変わることはありません。しかしながら、特定機能病院の歯科としてわれわれが担うべき課題を考えたとき、教育のあり方を合理化していかねばマンパワーが足りないのも現状です。新外来においては教育の場を中心としてプライマリケアユニットを活用することを目指しております。より集約化・合理化を進めることで、効率的な臨床教育の実践を進めていく必要があります。

歯科部門としての出発は、我々にとって歯科医療のチャンスを広げるものであると信じておりますが、同時に克服せねばならぬ課題もあります。それは歯科部門の経営改善、すなわち収益性の向上です。平成16年の大学の独法化以来、病院は大学の収益部門としての役割を担うようになりました。また新外来の実現には当然多大な費用を要しております。職員の皆様に共通の認識を持って頂けるように病院・歯科部門における収支状況や経営指標などは、科長会のみならず医局長会などを通じて積極的に開示していくつもりであります。構成員の皆様には一人一人が歯科部門を支えているという意識を今一度新たにして頂くことを希望します。また地域医療を担っておられる先生には、どうかこの歯科部門を活用した連携医療の推進につきご理解を賜りますようお願い申し上げます。



（掲載写真は、平成22年1月4日、歯科部門としての診療開始初日のスナップ写真です。）

## 顎口腔腫瘍の臨床病理と分子病理学的解析

口腔病理学分野教授 熊本 裕行



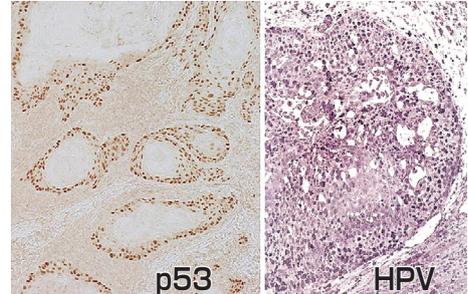
顎口腔は硬・軟両組織を含む多数の組織より構築されており、それらに由来する様々な腫瘍が発症する。当教室では、顎口腔領域に発症する腫瘍について、生検・手術による切除標本の病理診断を担うとともに、特に口腔癌および歯原性腫瘍について種々の検診・解析を行っている。

### 1. 口腔癌についての臨床病理学的検討

口腔癌は口腔粘膜上皮由来の悪性腫瘍で、わが国においては罹患者・死亡者ともに悪性腫瘍全体の約2%を占め、また近年顕著な増加傾向を示している。口腔癌や前癌病変およびそれらに関連する口腔粘膜病変を病理学的に診断することは、当教室の病理診断業務においてかなりの割合を占め、かつ、高い重要性を有しており、またこれらの発症にはp53癌抑制遺伝子の異常やヒト乳頭腫ウイルス(HPV)の感染が関わっている(右図)。

口腔癌の5年生存率は40-60%であるが、早期癌であれば5年生存率は80-90%と高く、口腔癌の早期発見の重要性が指摘されている。

このために必要な口腔癌についての基礎医学的知識、診査手法、他施設との連携などについて、医科との共同の「東北がんプロフェッショナル養成プラン」における「口腔がん健診特別研修」や宮城県歯科医師会との共同の「口腔がん対策事業」で、研修会を含む総合的な事業に取り組んでいる。



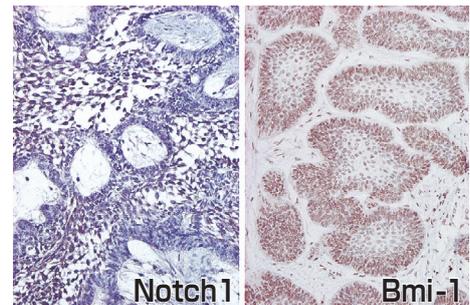
口腔癌におけるp53蛋白(免疫組織化学)およびHPV DNA (*in situ* hybridization法)の発現; 歯基礎誌 44:394,2002、東北歯誌 12:93-6,1993より改変。

### 2. 歯原性腫瘍における歯の発生制御因子に関する分子病理学的解析

歯原性腫瘍は歯の形成細胞に由来する顎骨腫瘍で、歯の発生と密接な関連を有し、臨床的には若年者に多く、病理学的には極めて多彩な組織像を呈する。一方、歯の発生は多くの制御因子により厳密に調節されており、これらの制御機構の破綻が歯原性腫瘍の発症に関わることが考えられている。当教室では、発生における形態形成や細胞分化の制御分子であるSHHやWntのシグナル伝達分子が、エナメル上皮腫や角化嚢胞性歯原性腫瘍において異常を示し、これらの腫瘍の発症に関わっていることを明らかにした。また、細胞の運命決定因子であるNotchとそのリガンドについて、エナメル上皮腫において検索し、これらの分子が腫瘍細胞の分化や増殖を制御している可能性があることが示された。更に、幹細胞マーカーであるCD133,Bmi-1,ABCG2の発現状況をエナメル上皮腫において解析し、これらの幹細胞関連分子が腫瘍細胞の動態管理に関与することを明らかにした(右図)。今後の更なる検索により、歯原性腫瘍の病因・病理発生・病態の理解が進むだけでなく、診断や予後の判定、新しい治療への応用などにも貢献しうると考えられる。また、これらの研究成果は歯や骨の発生・再生に関する基礎研究にも寄与することが期待される。



東北大学大学院歯学研究科で開講した口腔がん健診特別研修(2010年1月)



エナメル上皮腫におけるNotch1 (*in situ* hybridization法)およびBmi-1(免疫組織化学)の発現; J Oral Pathol Med 37:228-34,2008, J Oral Pathol Med 39:87-93,2010より改変。

### 平成22年度 歯学研究科・歯学部・病院歯科部門 執行部体制

歯学研究科	研究科長	佐々木啓一	副研究科長	小坂 健	高橋 信博		
			研究科長補佐	笹野 泰之	若森 実	福本 敏	
病院歯科部門	統括副病院長	島内 英俊	副病院長	五十嵐 薫	菊池 雅彦		



**主だった行事日程**  
 詳細は歯学研究科ホームページ  
 (HP)をご確認ください。  
<http://www.ddh.tohoku.ac.jp/>

**これからの主な行事 (平成22年)**

- ・ 6月18日(金) 東北大学歯学会
- ・ 6月22日(火) 創立記念日
- ・ 7月28日(水)・29日(木) オープン・キャンパス
- ・ 8月3日(火)・4日(水) 免許状更新講習  
(小学校・中学校・高等学校の養護教員対象)
- ・ 9月24日(金) 学位記授与式 (9月修了者)
- ・ 10月9日(土)、10日(日) 東北大学ホームカミングデー

**平成22、23年度歯学研究科大学院生募集**

募集人員：博士課程：47名、修士課程：6名  
 10月入学 (博士課程のみ)  
 出願期間 7月下旬、試験日 8月中旬  
 4月入学：出願期間 1次募集：7月下旬、2次募集：11月下旬  
 試験日 1次募集：8月中旬、2次募集：12月下旬  
 ※詳細は今後更新されますのでHPを参照して下さい。  
 ※申請手続き等の問い合わせ先  
 連絡先：東北大学歯学研究科教務係  
 TEL：022-717-8248 FAX：022-717-8279

**平成23年度歯科医師臨床研修医募集**

1) 見学会および説明会について (他大学出身者向け)  
 ○開催日時：  
 第1回 平成22年5月21日(金) 見学会13：30～・説明会15：00～  
 第2回 平成22年7月9日(金) 見学会13：30～・説明会15：00～  
 (どちらも同じ内容です)  
 ○集合場所：東北大学歯学部・歯学研究科 基礎研究棟 (A棟)  
 1階セミナー室  
 2) 研修歯科医の募集  
 ○募集定員：  
 単独型プログラム 52名、複合型プログラム 8名 (予定)  
 ○募集期間  
 7月12日(月)～8月6日(金)  
 募集要項等は、順次、歯学研究科ホームページに掲載します。

**平成22年度口腔がん健診特別研修**

受入人数：40名程度  
 研修場所：東北大学病院・歯学研究科  
 期 間：平成23年1月 (2日間) 予定  
 費 用：無料  
 応募方法：履歴書 (HPのリンクからダウンロードしてお使い下さい)  
 を郵送にて歯学研究科教務係へ提出  
 応募期間：平成22年12月予定  
 選 考：提出書類から総合的に選抜する  
 問い合わせ先：熊本裕行 (口腔病理学分野教授) TEL：022-717-8301

**平成22年度がん口腔ケア特別研修**

がん患者の口腔ケアに関わる歯科衛生士・看護師等対象。十数回のコース  
 問い合わせ先：小関健由 (予防歯科学分野教授) TEL：022-717-8327

**学会・講演会情報**

第87回日本生理学会大会併設企画「痛みのグループディナー」  
 日 時：5月20日(木) 午後6時30分開始  
 場 所：ホテルルイズ (盛岡)  
 話題提供者：篠田雅路 (日本大学歯学部生理学教室助教)  
 世話人：東北大学歯学研究科口腔生理学分野 林 治秀 教授

第36回社団法人日本口腔外科学会北日本地方会  
 第48回NPO法人日本口腔科学会北日本地方会  
 日 時：5月21日(金)、22日(土)  
 場 所：仙台市情報産業プラザ (仙台)  
 シンポジウム「インプラント予後不良例を乗り越えるために」  
 大会長：東北大学歯学研究科顎顔面外科学分野 川村 仁 教授

仙台市歯と口の健康づくり市民の集い  
 市民公開講座「長寿社会を楽しむためのお口」  
 「口腔がん・変わってしまった口の中の細胞たち」熊本裕行 教授  
 「口にもがんの攻撃がある」川村仁 教授  
 日 時：6月5日(土) 午後1時開始  
 場 所：歯科医師会館

第57回東北大学歯学会  
 日 時：平成22年6月18(金) 15時30分～  
 場 所：東北大学歯学部B棟1階講義室  
 演題：一般口演・教授就任講演 (正木英二 教授・市川博之 教授)

**人事報告**

大学役職を離れた方

1月 咬合機能再建学分野	教授	木村 幸平	退職
1月 歯内歯周治療学分野	助教	板垣 由美	退職
3月 顎口腔機能治療部	准教授	幸地 省子	退職
3月 歯科口腔麻酔学分野	准教授	猪狩 俊郎	退職
3月 口腔病理学分野	講師	小野寺 健	退職
3月 歯科医薬品創生学寄附講座	教授	篠田 壽	任期満了
3月 歯科医薬品創生学寄附講座	助教	村上 忍	任期満了
3月 インターフェイス口腔健康科学事業	研究助教	鈴木 祐子	任期満了
3月 顎口腔機能創建学分野	研究助教	益田 泰輔	任期満了
3月 口腔システム補綴学分野	研究助教	伊奈 慶典	退職
3月 顎口腔形態創建学分野	技術専門職員	江口 正美	退職
3月 看護師長		相澤 孝一	退職
3月 看護師長		高橋 秀子	退職
3月 看護師		高橋 真弓	退職
3月 看護師		山並美世子	退職

大学役職に就かれた方

4月 口腔病理学分野	助教	三木 康宏	採用
4月 口腔システム補綴学分野	研究助教	佐藤奈央子	採用
4月 口腔システム補綴学分野	研究助教	折居 雄介	採用
4月 歯科口腔麻酔学分野	研究助教	安田 真	採用
4月 歯科口腔麻酔学分野	研究助教	栗原 淳	採用
4月 インターフェイス口腔健康科学事業	研究助教	白石 成	採用
5月 歯科薬理学分野	助教	窪田 寿彦	採用

**編集後記**

平素からNews Letterにご支援いただき、誠にありがとうございます。無事に第5号を発刊することができました。前号発刊後の大きな変化として、この4月からは、歯学研究科および東北大学病院歯科部門ともに新体制 (新執行部) のもとに活動していくこととなりました。また、新外来診療棟移転に伴い「歯科医療センター」から「東北大学病院歯科部門」として既に今年の1月から運営されています。この新しい船出の発進力には皆様との情報共有こそ大切と思われます。編集委員一同、より良い紙面作りに努力してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。ご意見並びに情報等がございましたら、編集委員会にご一報頂ければ幸いです。(記飯久保)

編集委員 小関健由、飯久保正弘、高田雄京、戸田孝史、小山重人

**東北大学大学院歯学研究科地域歯科保健推進室**

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号  
 TEL/FAX：022-717-8318  
 URL：http://www.ddh.tohoku.ac.jp/ E-mail：newsletter@ddh.tohoku.ac.jp



この印刷物は、環境にやさしい大豆油インキで印刷しています。